

白居易と杜甫における「単独」韻字ユニット／「相似」韻字ユニット 対照表

- 上段を白居易、下段を杜甫とする。
- 律詩の首聯をA、領聯をB、頸聯をC、尾聯をDとする。
- 詩題はすべて省略し、「白居易律詩類型とその影響」（以下、本稿とする）に拠った書籍に記す作品番号で示す。
- 韻字は本稿で提示したものは、そのまま記し、それ以外の少数韻字はすべて◇の記号を使い、他の韻字と紛れないようにした。
- 五言の場合、一句を示すのに無韻句を|||とし、有韻句を||韻字とした。七言の場合も同様に無韻句を|||、有韻句を||韻字とした。
- 「相似」韻字ユニットが三例以上のものを太字ゴチック(赤)で記し、一例以下のものを細字筆記体(青)で記した。これで視覚的にわかりやすいと思われる。